

**WEST**

Generate Collection

Print

L2: Entry 9 of 13

File: JPAB

Mar 27, 2001

PUB-NO: JP02001078710A  
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2001078710 A  
TITLE: SOUP STOCK SOY SAUCE COMPRISING CRUDE DRUG

PUBN-DATE: March 27, 2001

## INVENTOR-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

ITAKURA, KEIKO

## ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

ITAKURA KEIKO

APPL-NO: JP11259146

APPL-DATE: September 13, 1999

INT-CL (IPC): A23 L 1/238; A23 L 1/30

## ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a soup stock soy sauce comprising crude drugs and having expectable effects on immune strength by mixing crude drug extracts.

SOLUTION: This soup stock soy sauce comprising crude drugs is obtained by formulating crude drug extracts such as Panax ginseng C. Meyer, Polygonum falcatum A. Gray, Zizyphus vulgaris Lam. var. inermis Bunge and a fruit of Lycium chinese Mill. with a concentrated soup stock soy sauce prepared by placing adequate amounts of a sea tangle and an extract of a dried bonito in a concentrated soy sauce base. Thereby, the soup stock soy sauce comprising the crude drugs, readily useful for maintaining the health, increasing the immune strength and relaxing the stress and capable of expecting excellent effects on health can be obtained by formulating the Panax ginseng C. Meyer, Polygonum falcatum A. Gray, Zizyphus vulgaris Lam. var. inermis Bunge and fruit of the Lycium chinese Mill. A dish prepared with medicinal herbs can continuously and easily be prepared even in usual home by taking in the soup stock soy sauce comprising the crude drugs as a sauce, etc., for a cooked food or Hiya- yakko (chilled bean curd) including a sauce for dipping noodles therein in daily eating habits.

COPYRIGHT: (C) 2001, JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-78710

(P2001-78710A)

(43) 公開日 平成13年3月27日 (2001.3.27)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テマコード* (参考)
A 2 3 L	1/238	A 2 3 L	A 4 B 0 1 8
	1/30	1/30	B 4 B 0 3 9

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平11-259146

(22) 出願日 平成11年9月13日 (1999.9.13)

(71) 出願人 399044872

板倉 啓子

富山県黒部市牧野682-1

(72) 発明者 板倉 啓子

富山県黒部市牧野682番地の1

Fターム(参考) 4B018 LB09 MD61 MD64 MD09

4B039 LB14 LC17 LG01

(54) 【発明の名称】 生薬入りだししょうゆ

(57) 【要約】

【課題】 生薬エキスを混合し、免疫力に対する効果が期待される生薬入りだししょうゆを提供すること。

【解決手段】 濃縮しょうゆベースに、適量の昆布、かつお節エキスを入れ作った濃縮だししょうゆに高麗人参、ナルコユリ、ナツメ、クコの実などの生薬エキスを配合した生薬入りだししょうゆで、高麗人参、ナルコユリ、ナツメ、クコの実を配合することで容易に健康維持と免疫力アップ、ストレス緩和に役立ち、健康上の面でも極めて良い効果が期待できる、生薬入りだししょうゆを提供することができる。生薬入りだししょうゆは、麵つゆをはじめ煮物や冷奴のかけ汁などとして日常の食生活に取り入れることによって、一般の家庭でも継続的に容易に薬膳料理を作ることができる。

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 濃縮だししょうゆに高麗人参、ナルコユリ、ナツメ、クコの実を配合してなることを特徴とする生薬入りだししょうゆ。

【請求項2】 濃縮だししょうゆに上記4種類の生薬エキスの他に適当な他の生薬エキスを配合することが可能であることを特徴とする生薬入りだししょうゆ。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は濃縮だししょうゆに関し、特に高麗人参、ナルコユリ、ナツメ、クコの実を組み合わせで配合し、免疫力に対する効果が期待される生薬入りだししょうゆに関する

## 【0002】

【従来の技術】近年の濃縮だししょうゆは基本的には高麗人参、ナルコユリ、ナツメ、クコの実を組み合わせで配合せずに、香料や甘味料などを混入して製造されている。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところで、従来の濃縮だししょうゆは香りや甘みがあったが、一方免疫力など体の機能強化の面で必ずしも効力が少なく、不十分であった。

【0004】本発明は上記問題点を鑑み成されたものであって、その目的とするところは健康維持と体の免疫力に対する効果が期待される生薬入りだししょうゆを提供することにある。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】本発明は良質の国産丸大豆、厳選した昆布、かつお節で作った濃縮だししょうゆに4つの生薬エキスを配合し、人工甘味料、合成保存料は使用せずに作り、容易に健康維持と免疫力アップ、ストレス緩和に役立つことができることを特徴とし、これにより体に良い生薬入りだししょうゆを提供するものである。

【0006】即ち、本発明は濃縮だししょうゆに高麗人参、ナルコユリ、ナツメ、クコの実など生薬エキスを配合してなることを特徴とする生薬入りだししょうゆ。また上記4種類の生薬エキスの他に紅花、蒲公英エキス等も配合することが可能であることを旨とする。

【0007】本発明において、濃縮だししょうゆに高麗人参を配合することにより、疲労回復、ストレス、免疫機能促進作用がある。またナルコユリを配合することにより、滋養、強壮、強精作用があり、体力回復によい。またナツメを配合することにより、補血作用、ストレス、筋肉の痛みによい。またクコの実を配合することにより、疲労、頭痛、目の疲れ、肝臓によい。

【0008】本発明に係る生薬入りだししょうゆは、機能的には従来の濃縮だししょうゆと同様の調味機能があり、しかも安心して使用できるものである。

【0009】本発明において、高麗人参、ナルコユリ、ナツメ、クコの実の装置材質はステンレス、アルミニウム合金等、食品を汚染しない金属又はプラスチックを用い、上部は円筒型でその底部がコーン状となった生薬ストック部分より抽出したエキスを単独で又は、併用して配合することができ、その配合量としては、濃縮だししょうゆベース100重量部当り：5～6重量部が好ましい。5～6重量部以上の場合、苦味が強くなり、以下では分量が足りず健康維持に好ましくない。

【0010】次に、本発明に係る生薬入りだししょうゆの製造法を説明する。まず、濃縮しょうゆに適量のコンブ、かつお節エキスを、装置材質はステンレス、アルミニウム合金等、食品を汚染しない金属又はプラスチックを用い、上部は円筒型でその底部がコーン状となった生薬ストック部分より抽出した高麗人参、ナルコユリ、ナツメ、クコの実エキスを混合し、水粗糖、酵母エキス、アルコールを添加し、仕上げに天然の追いかつおエキスを加えて製造した生薬入りだししょうゆを熟殺菌脱気し仕上げ製造する。

【0011】高麗人参はウコギ科のオタネニンジン根でそのまま乾燥したものを白参、蒸して乾燥したものを紅参といい、サボニン十数種、人参酸、ブドウ糖、果糖などの多量の糖類、アミノ酸、フマル酸、マレイン酸、コリン、苦味質、無機塩、ビタミンA、B1、B2、Cなどを含み、強壮、疲労回復、作業能力増進、免疫機能促進作用があり、胃の新陳代謝を高めるのでストレス、消化不良、腹痛に効果がある。ナルコユリはユリ科のカギクルマバナルコユリなどナルコユリの仲間の茎で、多糖類を含み、滋養、強壮、強精作用があり、虚弱、病後の体力回復、糖尿病の口の渇きなどに効果がある。ナツメはクロウメモドキ科のナツメの成熟果実で、タンパク質、糖類、多量のアミノ酸、ビタミンA、B2、C、P、微量のカルシウム、リン、鉄、マグネシウム、カリウムなどを含み、滋養、強壮、補血、利尿作用、精神安定によく、筋肉の痛み、過敏症に効果がある。クコの実はナス科のクコ及びナガバクコの成熟果実でベタイン、ビタミンA、B1、B2、C、カルシウム、リン、鉄、色素などを含み、強壮薬として疲労、無気力、頭痛などに用い、肝細胞の新生を促進する作用、血糖を低下させる作用、目の疲労に効果がある。

【0012】次に、本発明に係る生薬入りだししょうゆの実施例を挙げ、本発明を具体的に説明する。

## 【0013】

【発明の実施の形態】醤油（本醸造）、昆布（利尻昆布、ラウス昆布）かつお節（焼津産）椎茸ベース：100重量部に装置材質はステンレス、アルミニウム合金等、食品を汚染しない金属又はプラスチックを用い、上部は円筒型でその底部がコーン状となった生薬ストック部分より抽出した高麗人参、ナルコユリ、ナツメ、クコの実エキス5～6重量部を加え、水粗糖、酵母エキス、アル

コールを添加して、でき上がりに天然の追いかつおエキスを入れる。追いかつおを入れると腐敗が早まるため、菌の少ない状態でビン詰めを行なっている。しょう油、生薬エキス、追いかつおを入れたものを85℃まで温度を上げて15分攪拌しながら殺菌する。80～85℃の間でビン詰めを行い、ビンの口はアルコールで消毒殺菌をして栓をし、生薬入りだししょうゆを製造した。

【0014】

【発明の効果】本発明は以上詳記したとおり、濃縮しょ

うゆベースに昆布、カツオ節エキスと高麗人参、ナルコユリ、ナツメ、クコの実の生薬エキスを配合することを特徴とし、これにより健康維持機能やストレス緩和作用に良好な効果が期待でき、健康の面でも極めて良い生薬入りだししょうゆを提供することができる。

【0015】即ち、本発明に係る生薬入りだししょうゆは、使用後のまろやかなおいしさをもち、身体の免疫力の向上が期待できるから、健康上の面でも極めて良い生薬入りだししょうゆを提供することができる。